

年間第26主日 9月26日 分かち合い

私たちが主イエスの弟子として、どのような態度を持つべきなのかということを今日の福音書は教えてくださいます。まず、他者に対しては思いやり、親切な態度を持つ必要があります。私たちに反対しない人は、私たちの味方であると主イエスははっきり言われました。残念ながら弟子たちはどこまでいっても神のことを思わず、自分たちの偉さを誇っていて、主イエスの心が分からないのです。私たちもこの態度に注意しなければならないと思います。

今日の福音書の中で、ヨハネの目には、主イエスの名によって悪霊を追い出している人が、主イエスの弟子としての自分たちのグループに属しているかどうか、重大なこととして映っています。しかし、主イエスにとって弟子たちのグループは確かに特別なものではあるけれども、主イエスの眼差しは、弟子たちの狭い視野を越えてはるかに大らかに広がっています。

「キリストの弟子だという理由で、あなたがたに一杯の水を飲ませてくれる者は、必ずその報いをうける。」主イエスはこのようにも言っておられます。日本の場合には、宗教が違う私たちと長年一緒に暮らしてくれているお家の方々もいらっしゃると思います。私たちがそのことをどのように受け止めていようと、主イエスの目には、私たちに注がれている神さまの愛の中に入っているのです。そんな思いに結ばれて、主イエスに促されるようにして、お家の皆さんのためにこのミサの中で祈ることが出来たら素晴らしいことだと思います。

次に、「つまずかせる」は本来、「人の歩く道に罫を仕掛ける、道に障害物を置く」という意味です。「罪に誘う、神への道から引き離す」という意味に受け取ればよいでしょう。ただし、42節の「つまずかせる者は…」には、もっと一般的に「小さな者を軽んじ、小さな者に悪いことをしないように」という警告の言葉だと受け取ったほうがよいと思います。

主イエスの目はいつも「小さな者」に注がれていました。同じように「小さな者」を大切にすることが弟子たちに求められるのです。43節以降の「手があなたをつまずかせる」「片方の足が…」「片方の目が…」は非常に強い言い方です。実際に手や足や目が人に罪を犯させるのではありませんし、もしそうだとすると手や足や目を取り去ることは考えられません。これは明らかに誇張された表現で、「自分をつまずかせるもの」つまり「自分を神から引き離し、罪に誘うもの」を一切捨て去るようという強い警告です。これは自分に対してどのような態度を持つべきなのかということを主イエスは教えてくださいました。

つまり、主イエスが最も大切なこととして私たちに教えてくださったことは「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。また、隣人を自分のように愛しなさい」ということです。主イエスの弟子たちのように、主イエスの後に従おうとしている私たちは、親切な態度、または憐れみのこころをもって小さな者の一人をつまずかせないようなめぐみを願ひましょう。